信州大学「信州データサイエンスプログラム（仮称）」
リテラシーレベル自己点検・評価書（令和４年度後期）

信州大学全学教育機構長
高野　嘉寿彦

信州大学全学教育機構　点検評価委員長
金沢　謙太郎

1. 点検の概要

令和５年３月に，本学全学教育機構で本プログラム（リテラシーレベル）の修了に必要となる科目「データサイエンス（以下，DS）リテラシー」の実施状況・成果について点検・評価を行った。

点検にあたり，当機構の平井佑樹准教授から次のとおり報告があった。

- 令和４年度後期では，DS リテラシーの前身となる「DS 入門 A」を２コマ，「DS 入門 C」を３コマ，「DS 入門 D」を５コマ開講した。
- どの科目においても，前半部分において DS リテラシーに対応した授業を展開し，DS リテラシーと同じく完全オンデマンド形式で実施した。授業に用いた教材・課題・成績評価方法等は同一である。
- 令和４年度前期の点検・評価結果をもとに，後期では次の対応を行った。
  - 講義内容の見直し。特に，数式利用部分の説明をより丁寧に
  - 各クラス担当教員による補足コンテンツ（動画等）の提供
  - 小テスト内容の見直し。特に，複数選択問題における部分点の採用
  - 小テストに関わる練習問題の増加
- DS 入門 C では，履修取消者を除き，３コマ合わせて 43 名の履修があった。学部別履修者数は，人文：8，教育：4，経法：3，理：9，医：1，工：7，農：4，繊維：7 であった。
- DS リテラシーと同じ方法で成績を評価した場合，DS 入門 C では 43 名中 15 名が単位未修得となる成績であった。この 15 名については，小テスト未受験もしくは課題未提出が少なくとも２回あった（なお，DS 入門 C では科目後半部分も併せて，最終的な単位未修得者は３名）。取組の質はともかくとして，小テスト受験や課題提出をすべて行った学生は単位が修得できる成績であった。
- 「他の履修者も閲覧できる質問掲示板にて授業に対する良い質問を行うこと」で加点する制度を設けていたため，いわゆる文系学部（人文，経法学部）生であっても最高評価（＝秀）を獲得した学生がいた。
- 学生による授業アンケート結果等から，次の２点に関する知見を得た。
  - オンデマンド実施が良かったという意見がある一方，オンデマンド実施に対応さ

せる形で資料提供を充実させた結果，重要な点が分かりにくくなったという意見が出た。

- 数学に関する意見は出なかった。これは，数式利用部分の説明をより丁寧にした結果と考えられる。

以上の報告を受け,令和 5 年度前期開講の DS リテラシーでは次の対応を行うこととした。

・ 小テスト未受験・課題未提出を防ぐ対応

→ 学生全体に対して定期的にリマインダを行い，複数回連続で未受験・未提出の場合は個別に連絡する等の対応を行う。

・ 提供資料の整理

→ 重要・参考等のタグ付けを行う。また，必要に応じて各クラス担当教員による補足コンテンツにおいて，そのタグ付けについて説明する。

2. 評価の概要

令和 4 年度前期と同様，すべての課題に取り組み，提出することで単位が修得できる状況であったことから，特に大きな問題点は見当たらなかった。DS リテラシー開講に向けて，引き続き準備・検証を行っていくことを確認し，「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル)」への対応も引き続き行うことを確認した。

以上